



イリヤー・プーシキン

# 泳ぐ金槌の詩



私は  
日本の文学海で  
もがきながら泳ごうとする  
かなづち





イリヤー・プーシキン

泳ぐ金槌の詩

校正：大久保裕美

挿絵：マーシャ トウカチェンコ

装丁：シモーナ ヴェイスベルグ

2010 © Jerusalem, Ilya Pushkin

\*

一生懸命

深呼吸をする。

日本の女性はみんな、

「愛しているよ！」と言う私の叫びを

聞くために。

## 「日本人見」

日本人が公園で

お花見をして楽しんでいるとき、

私はお花見をしている日本人を

見て楽しんでいる。

日本人が咲いた桜の写真を

撮っているとき、

私はその公園で

桜の写真を撮っている日本人を

撮っている。

春に喜ぶ日本人は

咲いた桜のようだ。

私はお花見の代わりに

「日本人見」をする。

## 機内で思ったこと

誰も見送りにこなければ、  
離陸しないほうがいい。

誰も迎えにこなければ、  
着陸しないほうがいい。

隣に座った女性が微笑まなければ、  
機内に残らないほうがいい。

日本の上を飛ばなければ、  
飛行機から跳び出さないほうがいい。

## 荷物

「どうしてあなたは日本に、  
重い荷物を持って行くの？」  
「夢と希望がいっぱいの荷物だから。」

「どうしてあなたは日本から  
重い荷物を持ってきたの？」  
「これは裏切られた夢と希望で  
いっぱいの荷物だ・・・」



\*

私はコーヒーショップに  
よく傘を忘れる。  
でもこんな大雨の日には、  
傘の代わりに  
何か違うものを  
忘れたほうがいい。

## 江ノ島

江ノ島は  
山と海だ。  
空に鷺が飛んで、  
カモメは見えない。  
山が勝った。

## 忘れ物の詩

あなたからメールが届かないと、  
私は  
あなたの忘れ物に  
なってしまったような  
気がする。

\*

日本の少女たちは  
立っているときの  
足の使い方の秘密を  
知っているのだろうか。

でも、  
彼女たちの中には  
まるで初めて自分の足の存在に  
気がついたかのように、  
足を見つめている  
者もいる。

\*

なぜ、外国人の心臓は  
どきどきしているのだろうか？  
日本の女性の足が  
遊んでいるから。

\*

教授になるため  
私は、  
日本の少女の足について  
論文を書くつもり。

## 既婚女性との文通

最近のあなたからのメールは  
冷たい。

まるで  
ご主人が書いているようだ。

しかし本当は  
ご主人はあなたより  
もうちょっと優しい人だ  
と思う。

たぶん私は  
あなたと文通するよりも  
ご主人と文通するほうが  
いいのかもしれない。

\*

咲いた桜の写真をとりたければ、  
全部とらないで  
私にも少し  
残しておいてください。

\*

日本語の勉強を始める前に、  
日本人の恋人との  
別れの苦しみに  
耐える勉強を  
したほうがいい。

\*

春の暖かさは  
恋人よりも  
もっと素早く  
人から  
服をとるだろう。

春のそよ風は  
恋人よりも  
もっと優しく  
触れてくれるだろう。

でも、春だからこそ  
私には  
あなたの唇と手の優しさが  
必要なのだ。

\*

浅草の人力車は  
一番速くて  
一番忍耐強い。  
きっと人目を忍んで  
ガソリンを入れるのだろう。

\*

私は手紙を書いたけれども、  
あなたからの返事は  
こなかった。  
もしかしたら、  
あのきれいな花が  
あなたの  
返事なのかもしれない。

\*

春になったら  
草木の衣替えを楽しみながら、  
冬のあの苦い思い出を  
押入れの中に  
しまってください、  
毛布といっしょに。

\*

新宿駅は複雑だね。  
渋谷駅の前に  
ハチ公の像を  
作ったのならば、  
新宿駅の前には  
道に迷った外国人の像を  
作ったらしい。

\*

漁師と旅人を  
喜ばすために  
吹き始めたよ  
温かい風が  
東の空から

でも、  
あなたの  
心の中には  
冷たい風が  
吹きつづく。  
シベリヤの  
空から。

## 飛んでいるサラリーマン

夜アメ横で  
仕事の後で休んで  
サラリーマンの群れは  
酔っ払って  
離陸し  
星の空に飛んでいってしまった。



## すごい表情と高いお面

そのお面は  
自分の値段を知っているので、  
すごい表情をしている。

## 日本人の女性へ

私の詩の中の女性に  
やきもちをやかないでください。  
その女性は  
あなた  
なのかもしれないのだから。

\*

一瞬  
咲いた花の  
そばにいるようだった。  
私の横を  
日本の女性が  
自転車で  
通り過ぎただけなのに。

## 地震

揺れ始めると、  
私はテーブルの下に  
避難して  
あなたと逢う。  
周りの世界は全て  
崩壊するけれど、  
やっと  
あなたと寄り添える  
幸せな私・・・

\*

天国には  
栄養士がないので、  
もう一つ  
日本のお菓子を  
お忍びで  
食べる。

\*

日本では  
ゴミ箱を見つけるのが  
難しいね。  
仕方なく  
外国人は  
国にゴミを持ち帰った・・・

\*

日本の鉄道は限りない。  
でも、  
レールが終われば、  
電車は離陸するのだろう。

\*

散った桜の花びらは  
かなえらなかった  
誰かの夢かもしれない。  
その花びらの間に  
きっと  
私の夢もあるだろう。

## 片目の達磨

達磨はたくさん集まったけど、  
君は帰らない。  
白い目から涙は流れない。

\*

今晚君に逢えるという希望は  
夕日と共に沈んでいく  
私は夕日に「待ってくれ」と言い  
夕日と一緒に君を待っている。

\*

私の妙な詩は  
愛の矢みたいに  
容赦なく  
あなたの心に  
突き刺さることがある。

私のうるさい詩は  
金槌で叩かれた釘のように  
容赦なく  
あなたの頭に  
突き刺さることがある。

\*

海岸に残ったアメリカ人の船長は  
涙を通して  
日本人の蝶々さんの  
出ていく船を見ている・・・

私の筋書きでは、  
アメリカ人の船長が  
日本人の蝶々さんに  
失恋して自殺する。

## 猫の詩

\*

子猫がなじるような目をしないために  
私はミルクを買うが  
君のなじるような目を見ないためには  
どうしたらいいのだろうか？  
君の優しい鳴き声を聞くためには  
どうしたらいいのだろうか？

\*

子猫とはいつでも少しのミルクと  
少しの優しさを交換することができる。  
ミルクを欲しがると子猫からは  
いつでも優しい「お帰りなさい」  
という鳴き声を聞くことができる。

しかし君の「お帰りなさい」からは  
優しさを感じるができなかった。  
君がミルクではなくお酒をのんでいたからだろうか？

\*

子猫がミルクの変わりにお酒を飲めば  
「ニャン」といわずに「乾杯」というのだろう。

\*

この寒い夜、  
遠い国で  
暖かい私の毛布の下は  
いつまでも  
やさしい猫ちゃんを  
待っている。  
君のやさしい「ニャン」を  
私はいつも聞きたい。

\*

君の袖の上に  
太陽の光によるきらめきがある。  
君は私の生活の上に映える  
太陽の光の輝きかもしれない。

\*

私たちの愛が  
灰になったとき、  
愛の葬儀に  
散る桜の花びらだけを  
招待しましょう。



## 一万の女性と文通

僕が君にメールを送るとき、  
誰が答えるのか予知できない。

君のアドレスからなのに  
たくさんいろいろな女性が  
メールを送ってくる。

今日届いたメールが  
親切な看護婦から来たものでも、  
明日のメールは鬼婆からのかもしれない。

僕が優しい恋人からのメールで  
喜んでいたのに、  
すぐに親の敵からの  
メールも受け取った。

君と文通するのは  
一万のいろいろな女性と文通しているようだ。

すこしのあいだでいいから、  
一人の女性になっていて。  
僕が君に答えるための  
時間がほしいから。

## 忙しい女性の愛情

君の心に隙間を  
見つけたけど、  
君の予定表に隙間を  
見つけることができない。

ある日  
計画していなかった  
激しい愛情が  
あなたを訪れて  
重要な予定表を  
ちぎれちぎれにするし  
あなたの心もずたずたに切る・・・

## 春の天国によじ登り

私の

日本で生活できるという希望は  
遅い雪どけと一緒に  
消えた。

私の

天国に滞在するための許可証は  
桜の花びらに書かれたので  
散ってしまった。

私は

天使になれなければ  
煉獄に残るしかないのだろうか。

## 鬼婆への愛

1.

彼女が射た毒矢が  
私の心に突き刺さった、  
私は倒れながらも  
微笑む。

2.

私がこの岩から淵に飛び降りても、  
この岩は泣きも笑いもしない。  
彼女の心はこの岩よりも冷たい。

## 生活を変えたい女性へ

詩人と結婚したければ、  
まず部長と別れなければならない。  
いつか詩人は  
お金持ちになるかもしれない。  
部長は絶対詩を書かない。

## さようならの詩

\*

私たちの生活は  
君の「さようなら」と  
「さようなら」の間に存在する。

私は別れては一緒になるの  
繰り返しに疲れた。

君の次の「さようなら」まで  
このきれいな夕焼けで  
楽しむのだろうか？

\*

私があなただのメールを開いたら  
そこには冷たい雨が降っていた。  
そして、あなたは「さようなら」という  
冷水を私に浴びせた。

「さようなら」の代わりに  
私たちは  
雨から逃れて  
一つの傘の下で寄り添う。  
お互いのぬくもりを  
感じるために。

\*

愛する彼女から  
「さようなら」  
が届いたら、  
私はこの「さようなら」  
と文通をし続ける。

## 建国記念日のこと

日本よ、  
あなたは私にとって夢の国！  
あなたの建国記念日は  
私の「建夢記念日」となった。

## 春の愛

梅の花が咲き始めた。  
私たちが  
三月に逢うなら、  
梅の花が咲く時期と  
桜の花が咲く時期の間に  
私たちの愛が咲き始めるだろう。

\*

私にとって  
旅行者に  
日本を見せるのは  
見知らぬ男に  
自分の妻の美しさを  
見せるかのようだ。

## 外国人の質問

江戸っ子になるには  
どうすればいいのだろう？  
東京の女性と  
七時にハチ公前で  
逢えばいいのかな。

## 水泳の練習

まず  
きれいな女性と一緒に  
二つの金槌は  
海で  
もがきながらも泳ごうとする。

次に  
彼女と一緒に  
二つの金槌は  
夫婦生活の海で  
もがきながらも泳ごうとする。



\*

あなたは  
私を恋する前に  
既に  
私を去った。

今あなたは  
私のメールを  
開く前に  
既に  
削除している。

## 平日の詩

あなたの隣で寝坊して  
幸せな人として目が覚める、  
愛の平日。

二日酔いで頭が痛い。  
一人で  
不眠の夜の後には起きるのは  
孤独の平日。